

概要版

名古屋大都市圏



まちづくりビジョン

～常に進化する協働型ビジョン～

名古屋都市センター
減災まちづくり研究会

平成28年3月

■背景と目的

- 現在想定されている南海トラフ巨大地震は広域災害で、発災後の復旧・復興には広域的な対応が求められています。レジリエンシーの高い持続可能な都市を形成するために、広域・大都市圏を一体的に扱うビジョンが必要です。
- 本ビジョンは、平成26年3月に減災まちづくり研究会が提言した「ナゴヤ減災まちづくりビジョン」を基礎に、名古屋大都市圏(名古屋市を中心とする概ね50km圏)を対象に、都市基盤、産業、都市拠点・商業地、居住地、森林・農地等の5分野および広域的に重要な特定地区(名古屋港地区、名古屋の都心地区、名古屋東部の丘陵地区)の減災まちづくりの課題と方向性を明らかにし、名古屋大都市圏減災まちづくりビジョンの初期案を提示するものです。
- 本ビジョンの目標年次は2050年(平成62年)頃とします。

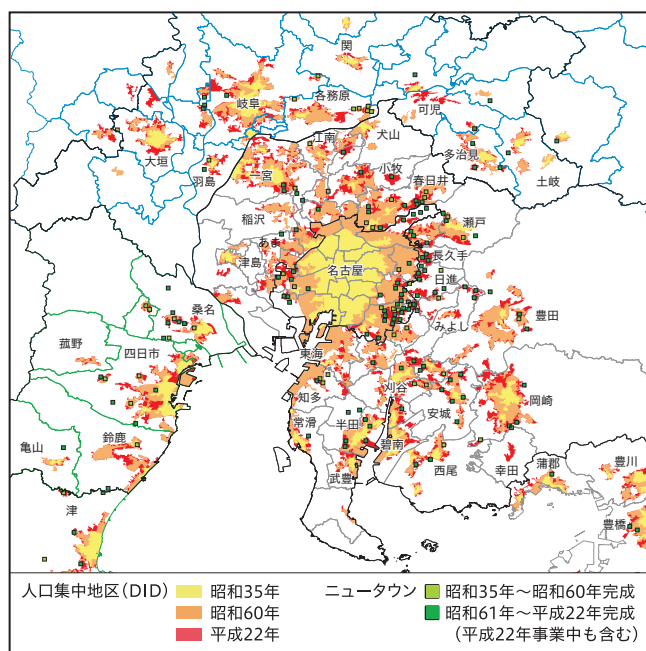


名古屋大都市圏の範囲

※「国土数値情報(国土交通省)」より作成

◎名古屋大都市圏の主な現状

- 昭和35年～平成22年の50年間の名古屋大都市圏におけるDID(人口集中地区)の広がりやニュータウン建設の状況をもとに、人口分布の変遷を俯瞰すると、相対的に重心が圏域の東側に移動しています。
- 市町村の行政区域界を超えて広域的な視点から主要な都市計画の基本方針を示すものに、県単位の都市計画区域マスタープランがあります。一方で市町村には、個々の都市計画マスタープランがありますが、周辺市町村との調整を含め広域的な整合性を十分図っておくことが重要となっています。

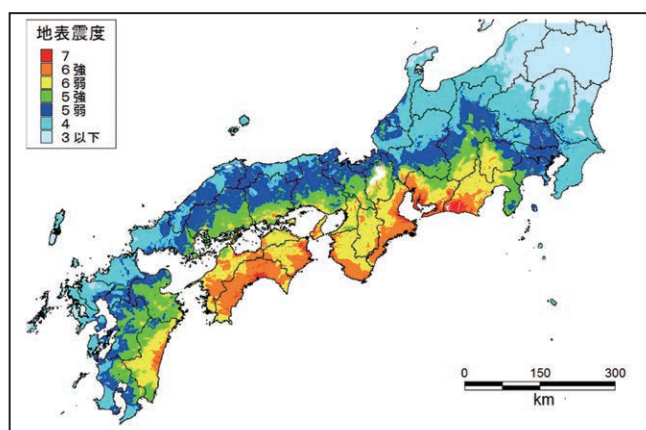


DIDの変遷とニュータウン建設

※「国土数値情報(国土交通省)」より作成

◎南海トラフ巨大地震の被害想定

- 内閣府が平成24年8月に公表した「南海トラフ巨大地震の被害想定について(第一次報告)」によれば、震度(陸側ケース)は、濃尾平野、岡崎平野、伊勢平野、知多半島、渥美半島で震度6強以上となっています。また、満潮時の津波高(東海地方が大きく被災するケース)は、渥美半島の先端部で20m以上、太平洋側で10m以上、そして伊勢湾に面した知多半島と伊勢平野で5～10mと予想されています。

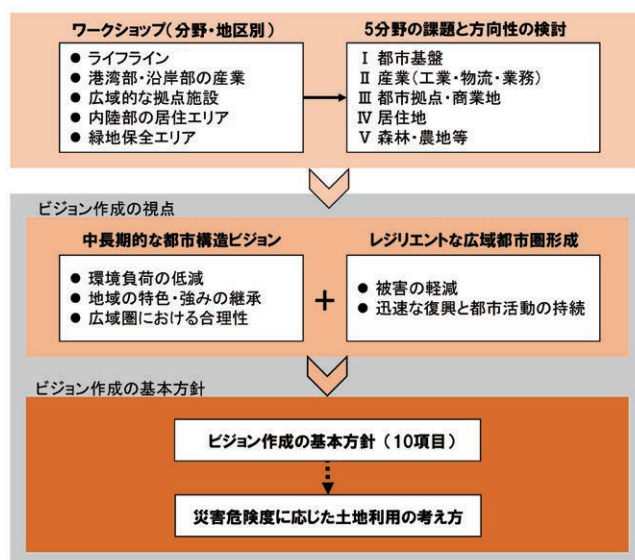


南海トラフ巨大地震による地表震度(陸側ケース)

※「南海トラフ巨大地震の被害想定について(第一次報告)」(内閣府)より

■ビジョンの考え方

- ビジョンの作成には、環境負荷の低減、地域の特色・強みの継承、広域圏における合理性の確保を目指す「中長期的な都市構造ビジョン」の視点と、自然災害による被害の軽減、迅速な復興と都市活動の持続を目指す「レジリエントな広域都市圏形成」の視点が必要です。
- 二つの視点に基づき、自然的土地利用の保全、「コンパクト＋ネットワーク」型の都市構造の形成、都市の持続的発展に不可欠な都市拠点や都市資源の保全、基幹的インフラの強化、居住機能や産業機能の災害危険度の低い場所への誘導再配置など10項目の「ビジョン作成の基本方針」を掲げ、あわせて「災害危険度に応じた土地利用の考え方」を提示しています。



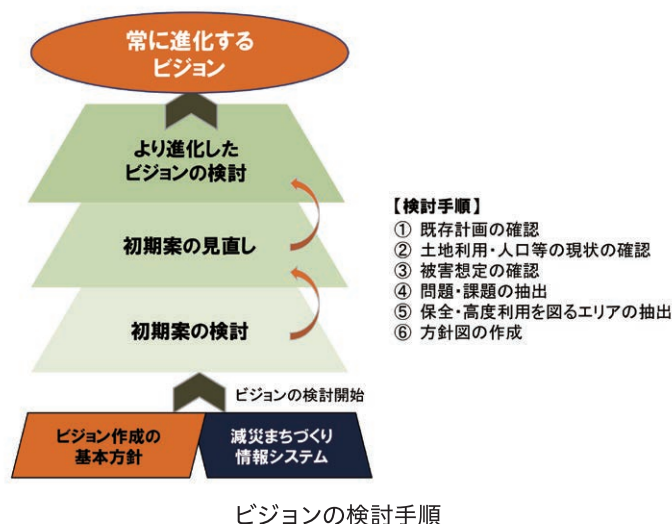
ビジョン作成の基本方針の導出過程

- 本ビジョンは減災まちづくり情報システム※1を活用し、行政、専門家、市民、企業など多様な主体との創発的なワークショップを通じて、

- ①既存計画の確認
- ②土地利用・人口等の現状の確認
- ③被害想定の確認
- ④問題・課題の抽出
- ⑤保全・高度利用を図るエリアの抽出
- ⑥方針図の作成

の順番で検討し作成しています。

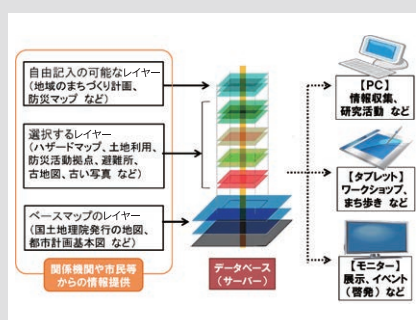
- 作成にあたっては、①から⑥までの一連の作業を1サイクル実施するだけでは十分な内容が得られないため、状況の変化に対応しながら減災まちづくり情報システムのデータを更新しつつ、ビジョンの内容を進化させていくことが重要になります。



ビジョンの検討手順

※1 減災まちづくり情報システム (ISDM : Information System for Disaster Mitigation)

名古屋大学減災連携研究センターと名古屋都市センターが共同で開発中のシステム。国土地理院発行の地図、都市計画基本図等の基礎的レイヤー、ハザードマップ、土地利用、防災活動拠点、古地図等の選択可能なレイヤー、地域のまちづくり計画、防災・減災マップ等の自由記入可能なレイヤーの三層構造のデータベースを備え、研究やワークショップなどの使用目的に応じ、スマートフォン、タブレット、PC、モニターなどに情報提供が可能。



ISDMの構築イメージ



ISDMを活用したワークショップ

■減災まちづくりの課題（分野別）

I 都市基盤

- 空港、港湾、火力発電所等の広域基幹的都市基盤が津波浸水や液状化の想定される湾岸部に立地しており、その確実な防災対策が必要です。
- 下水処理場、浄水場等は分散的に立地していますが、特に愛知県西部や三重県湾岸部は、想定される津波浸水、液状化、洪水浸水への対応が必要です。

II 産業（工業・物流・業務）

- 湾岸部では強い揺れと津波浸水への対応が必要です。
- 内陸部の河川周辺は液状化と洪水浸水への対応が必要です。
- 湾岸部から内陸部への産業機能の移転も考えられますが、土砂災害に注意する必要があります。

III 都市拠点・商業地

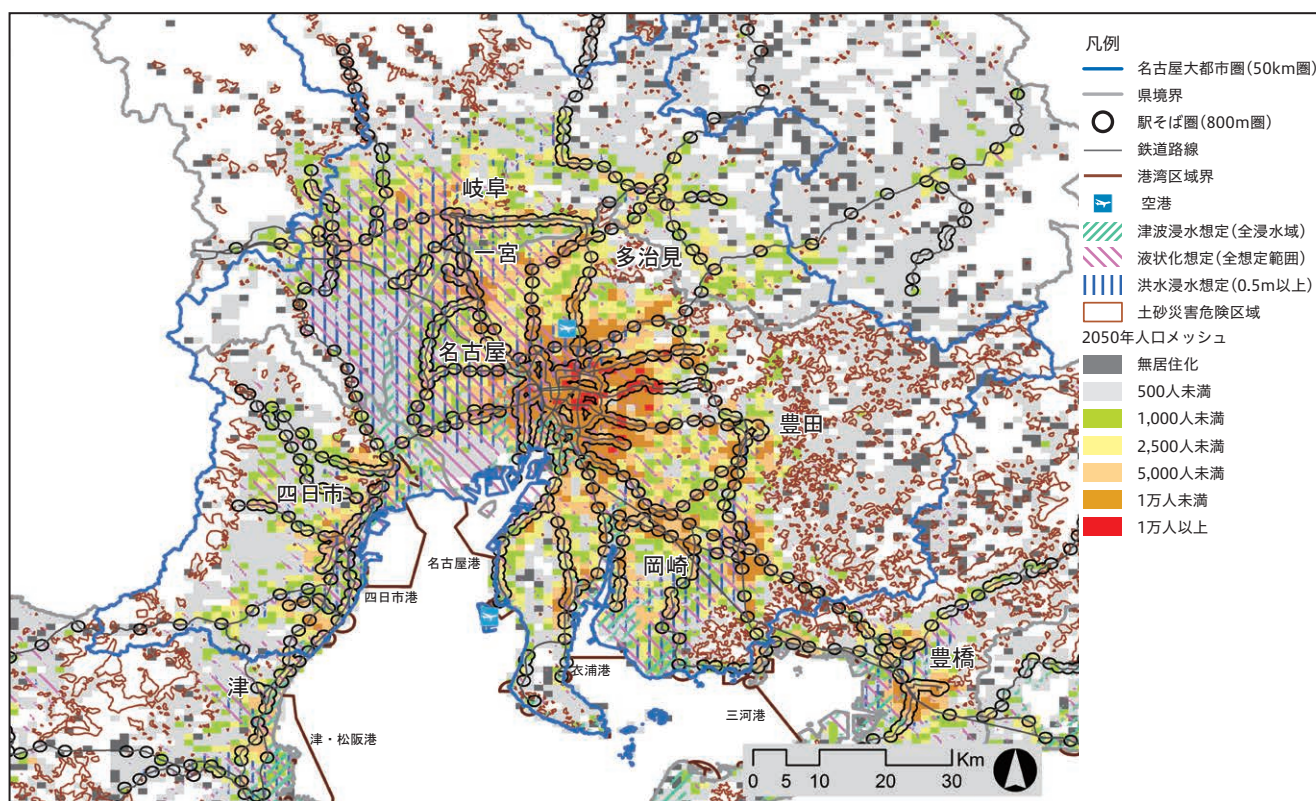
- 一部の主要な行政施設や拠点病院は津波浸水、液状化、洪水浸水が想定されるエリアに立地しており、それらへの対応が必要です。
- 災害危険度の高い都市拠点や商業地は、状況に応じて、現地での強靱化や災害危険度の低いエリアへの移転等の対応が必要です。
- 都市拠点や商業地に集中する来訪者や就業者等の人命を守る対応は急務です。

IV 居住地

- 液状化や洪水浸水が想定されている愛知県西部一帯には多くの人が居住しており、大規模災害からの復旧・復興に長期間を要する可能性が高い。
- 津波浸水や液状化が想定されている三重県湾岸部には多くの人が居住しており、大規模災害時の避難が重要になるとともに、復旧・復興に長期間を要する可能性が高い。
- これらの地域においては、人口増減の趨勢や想定される災害の種類を踏まえ、居住地の強靱化または低密度化の検討が必要です。

V 森林・農地等

- 自然的土地利用が卓越するエリアは居住人口が少なく、大規模災害への対応の必要性は低いですが、農業や林業を支えている集落があることを忘れてはなりません。
- 災害危険度の高いエリアから市街地や施設等の移転を検討する際には、災害危険度の低い自然的土地利用エリアが移転先の候補地となります。
- 集中豪雨による内水氾濫の抑制や緊急時のオープンスペースの活用、市街地の高温化への対応などから、主要都市の市街地における自然的土地利用を回復する努力が重要です。



課題図IV:将来の居住集積と被害想定

※「国土数値情報(国土交通省)」および「南海トラフ巨大地震被害想定(内閣府)」より作成

■減災まちづくりの方向性（特定地区）

a 名古屋港地区

日本の輸出入産業の持続的な発展を支えるため、産業機能の強化を図りつつ港湾物流エリアの強靱化を徹底することが重要です。一方、内港地区の北部エリアは駅そば圏の液状化・洪水対策を進めつつ、物流拠点の再配置や都市的土地利用の誘導を、南部エリアは都市的土地利用との棲み分けに留意し、物流機能の更新を図ることが重要です。



飛鳥ふ頭（港湾物流の中核機能強化）
※写真提供：名古屋港管理組合

b 名古屋の都心地区

建築物等の耐震性強化は必須のこととして、魅力創出とともに都心の中枢機能を強靱化する重要性は高い。特に、広域交通結節点機能を発揮する名古屋駅エリアは、災害危険性に対応して高水準の浸水・液状化対策が必要です。また、行政中枢機能が集積している三の丸エリアは、レジリエントな広域都市圏の形成に向け、防災上の中枢機能を一層高める必要があります。



名古屋駅エリア（広域交通結節点機能強化）
※写真撮影：名古屋都市センター

c 名古屋東部の丘陵地区

鉄道駅周辺の強靱化や都市機能・行政機能・拠点病院機能の充実等を図りながら、「コンパクト＋ネットワーク」型の都市構造の形成を図ることが重要です。また、農地ゾーンにおける人口増に対応するため、災害危険性を回避しつつ緑豊かな低密度居住区の形成を図り、また、発災時に広域的な視点から他地区の居住機能再配置を受け入れることができる宅地をリザーブしておくことも重要です。



人口増加エリア（緑豊かな低密度居住区の形成）
※写真撮影：名古屋都市センター

■減災まちづくりの方向性（分野別）

I 都市基盤

- 既存の高速道路、新幹線、鉄道、港湾、空港の適切な維持管理を行い、リニア中央新幹線も含め、広域交通基盤の未整備区間の整備を進めて、交通ネットワーク機能を強化します。
- 湾岸部に立地する空港、港湾、火力発電所等の広域基幹的都市基盤の確実な防災対策を実施します。
- 下水処理場、浄水場等は防災対策を行うとともに、減災だけでなく、人口減少や環境負荷低減も考慮し市街地の低密度化を検討するエリアでは、施設のダウンサイジングを視野に入れます。

II 産業（工業・物流・業務）

- 湾岸部の産業は、強い揺れと津波浸水に対応するため現地での強靱化を徹底するとともに、設備更新や企業戦略に合わせ、災害危険度の低い内陸部への施設移転も検討することが重要です。
- 中川運河沿岸部については、港湾物流の大幅な減少などの産業構造の転換に応じて土地利用転換を図ることが重要です。
- 産業の本社機能が多く立地している主要都市の中心市街地については、被災後もその機能が確実に発揮できるよう強靱化を進めます。

III 都市拠点・商業地

- 災害時の昼間人口の対応も含め、現地の強靱化を図る必要があります。一方、津波浸水などによる深刻な災害が想定されるエリアでは、行政施設や拠点病院などを災害危険度の低いエリアへ移転するなど対応を検討する必要があります。
- 中心市街地において多面的機能を持つオープン

スペースの整備をすすめ、また大規模商業施設やその立体駐車場について被災後の活用が図れるようにします。

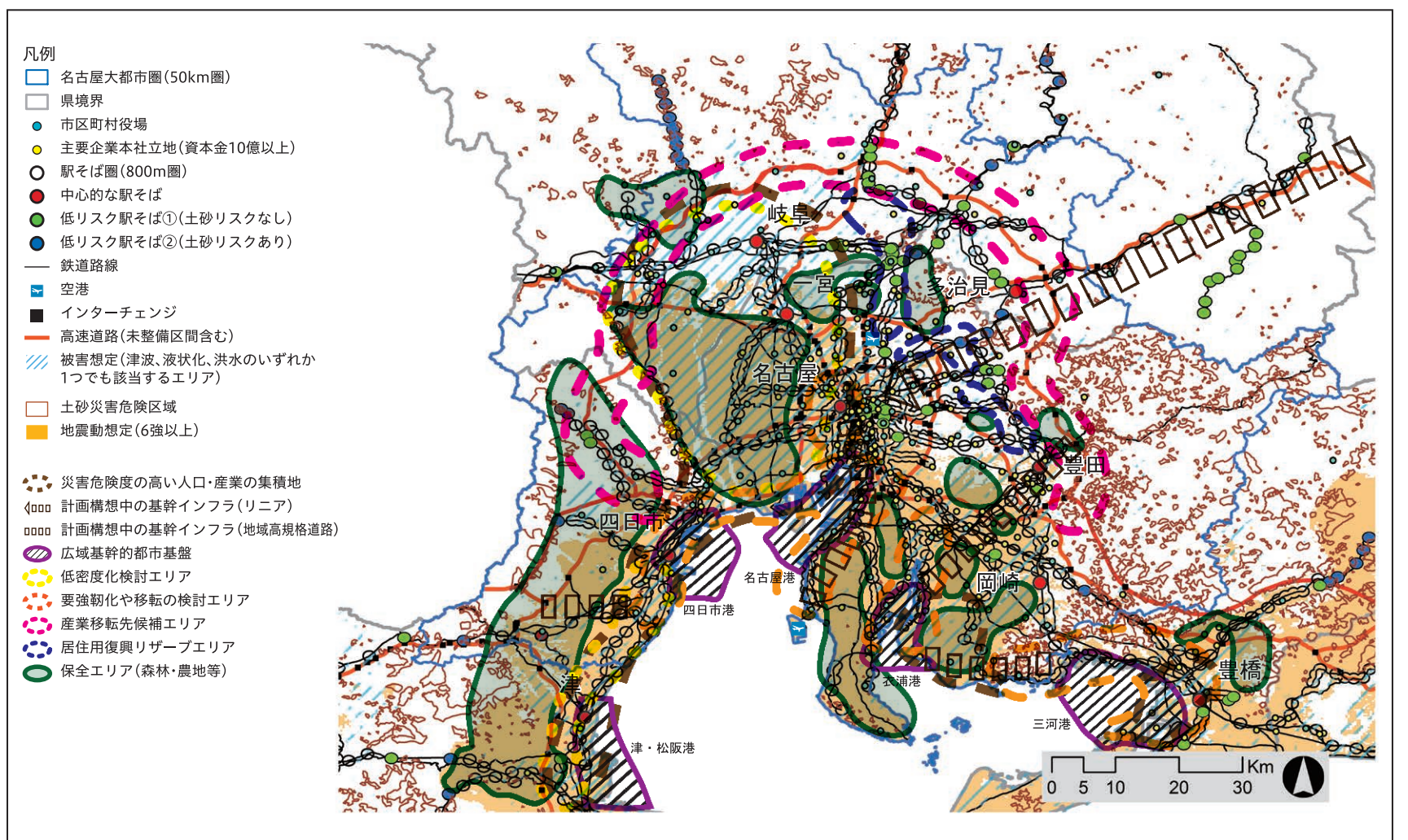
IV 居住地

- 人口増減の趨勢や災害の種類と危険度を踏まえた強靱化または低密度化を図ることが重要です。
- 災害危険度の低い駅そば圏は都市機能や居住機能の集積を図り、駅そば圏以外の市街地は、低密度で良好な居住環境の形成を目指すとともに環境負荷の低減を図ります。
- 災害危険度の低い宅地・農地混在エリアは、大規模災害発生後の居住機能受け入れ用のリザーブ地として、できるだけ土地利用更新を留保し、低密度で緑豊かな居住環境を維持します。
- 災害危険度の高いエリアのうち、中心的な駅そば圏や歴史的市街地・集落等、相対的に災害危険度の低い特定地域では居住地の集約・強靱化を図り、その他は低密度化を検討します。
- 津波被害が想定される沿岸部の市街地においては、避難路・避難地の整備とともに、低密度化も視野に入れた対応を検討します。

V 森林・農地等

- エネルギーや食料の確保、環境問題への対応のため、森林・農地等の自然的土地利用をできるだけ保全します。
- 既存の市街地においては、環境負荷の低減、災害対応という観点から、一部の道路のグリーン化（街路樹の整備、雨水貯留施設と植栽の整備、舗装の木質化）をはじめ、自然的土地利用を回復していく努力が必要となります。

■名古屋大都市圏の減災まちづくりの方向性



名古屋大都市圏減災まちづくりビジョン総括図(初期案)

※「国土数値情報(国土交通省)」、「TSR事業所情報ファイル(東京商エリサーチ)」および「南海トラフ巨大地震被害想定(内閣府)」より作成

■ビジョンの実現に向けて

- 南海トラフ巨大地震などの大規模自然災害は、市町村、あるいは県などの自治体の範囲を超えて発生するため、防災・減災については広域的な取り組みが必要です。
- 南海トラフ地震対策中部圏戦略会議、東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会、愛知県地域政策懇談会、西三河防災減災連携研究会※2、東海圏減災研究コンソーシアムなどで広域的な検討が実施されていますが、名古屋大都市圏における地域・地区の減災まちづくりについて、十分な取り組みがなされているとは言い難い。

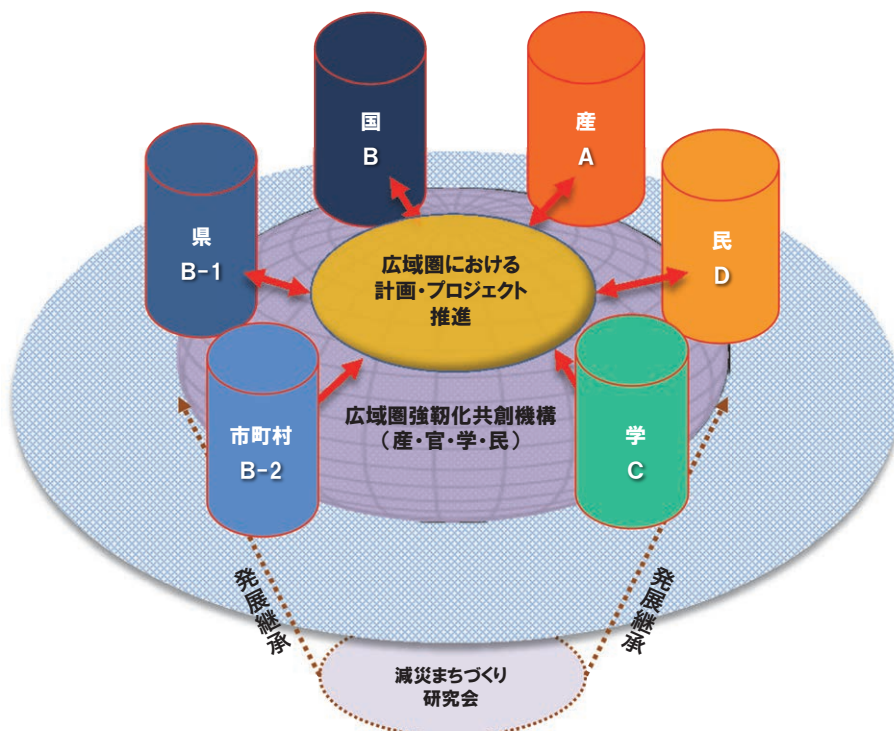
※2 西三河防災減災連携研究会

名古屋大学減災連携研究センターと西三河9市1町が協定を締結し設置された研究会。平成28年1月に副市長・副町長のワークショップが開催され、広域的な視点の重要性が確認され、各市町が個別で保有する情報を、広域で共有することの重要性が共有された。



床に広域情報を投影しながら進められたワークショップ

- 本ビジョンは、行政、産業界、学識者、市民との協働を通じて、状況の変化に対応しながら内容を進化させていくものなので、ビジョンの実現に向けて弾力的に取り組むことのできる「広域圏強靱化共創機構」のような体制を構築しておくことが望ましい。



広域圏強靱化共創機構のイメージ

- A：一般社団法人中部経済連合会
防災特別委員会
- B：南海トラフ地震対策中部圏戦略会議
東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会
その他
- B-1：愛知県地域政策懇談会
あいち防災協働社会推進協議会
その他
- B-2：西三河防災減災連携研究会
東三河地域防災協議会
名古屋市近隣市町村長懇談会
その他
- C：東海圏減災研究コンソーシアム
(岐阜大学、静岡大学、名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学)
- D：リソースマッチング2016
(なごや環境大学実行委員会)

このパンフレットは、「名古屋大都市圏減災まちづくりビジョン」
本編の構成に沿って概要をまとめたものです。
本編冊子については、名古屋都市センターまちづくりライブ
ラリーで販売（税込1,000円）しています。

（発行）

公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター

〒460-0023 名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル内

Tel : 052-678-2216 Fax : 052-678-2211 <http://www.nui.or.jp>

（デザイン・印刷）

株式会社昭栄社印刷所